

高校受験対策 現代文キーワード

抽象語・対概念をマスターして
論理的思考力を強化しよう



おうち受験

【1】一般 ⇄ 個別

✓ 一般 (General)

全体に共通する性質や概念。広い範囲を指す言葉。

例：「果物」「人間」「生物」

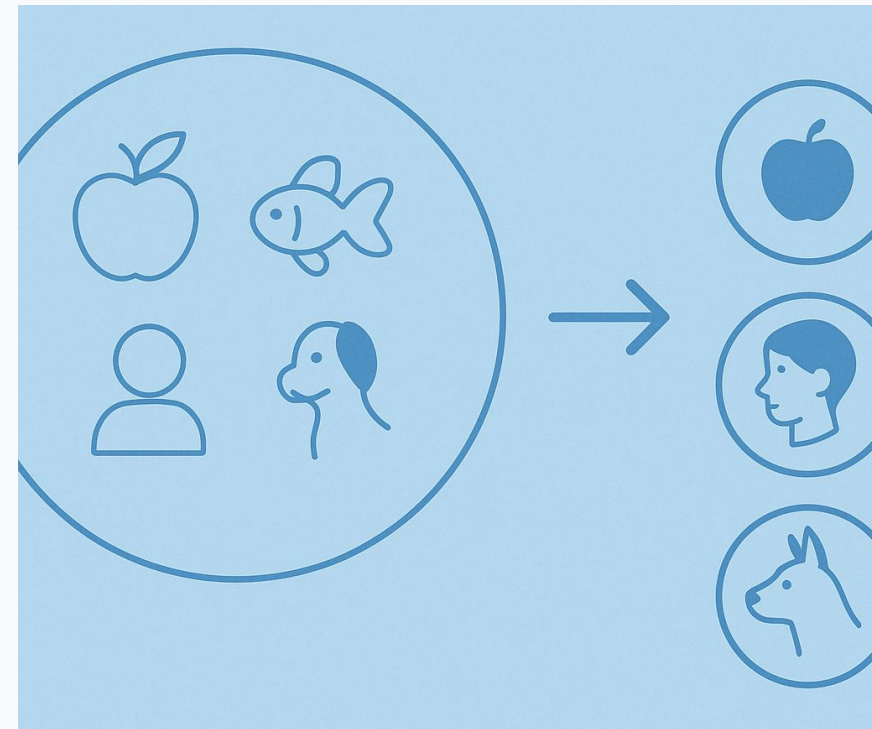
✓ 個別 (Individual)

一つひとつの具体的なもの。特定の対象。

例：「リンゴ」「Aさん」「犬のポチ」

ポイント:

論説文では、「個別の事例」から「一般的な法則」を導き出す流れが頻出です。



【2】 具体例 ⇄ 抽象化 ⇄ 本質



具体例

目に見える事実やデータ。
「例えば～」で始まる部分。



抽象化

共通の性質を抜き出す作業。
「要するに」でまとめられる。



本質

物事の根本にある性質や考え。
筆者の最も言いたいこと。



【3】 前提 ⇄ 論拠 ⇄ 結論

論理的な文章は、しっかりとした「建物の構造」に似ています。

- ✔ **前提 (Premise)**

議論の出発点となる土台や共通認識。

- ✔ **論拠 (Warrant/Basis)**

なぜそう言えるのかという理由・根拠。
柱のように結論を支えるもの。

- ✔ **結論 (Conclusion)**

最終的に主張したいこと。
建物の屋根にあたる部分。



【4】 論理展開のパターン

対比・類似

対比: AとBの違いを際立たせる。
「しかし」「一方で」

類似: AとBの共通点を述べる。
「同様に」「同じく」

→ 因果・例示

因果: 原因と結果の関係。
「したがって」「なぜなら」

例示: わかりやすく例を挙げる。
「例えば」



【5】重要語彙 60選

高校入試頻出の抽象語をマスターしよう



レベル1：必須対義語チェック

用語 A		用語 B (対義語)
普遍 (Universal) いつでもどこでも成り立つこと	⇔	特殊 (Particular) 限られた場合や範囲でのみ成り立つこと
絶対 (Absolute) 比較対象がなく、それ自体で価値がある	⇔	相対 (Relative) 他との比較によって価値が決まること
主体 (Subject) 自らの意志で行動する側	⇔	客体 (Object) 行動の対象となる側
分析 (Analysis) 細かく分けて調べること	⇔	総合 (Synthesis) まとめ上げて一つにすること

レベル2：性質・論理を表す言葉



曖昧 (Ambiguity)

意味が一つに定まらず、はっきりしないこと。「多義的」とも言う。



矛盾 (Contradiction)

前後のつじつまが合わず、理屈が通らないこと。



合理性 (Rationality)

理にかなっており、無駄がないこと。効率が良いこと。



レベル3：社会・文化に関する言葉

社会の仕組み

規範 (Norm): 社会集団の中で従うべきルール。

共同体 (Community): 地縁や血縁で結ばれた運命共同体。

制度 (Institution): 社会的に定められた仕組み。

文化と価値

概念 (Concept): 言葉が表す意味内容。

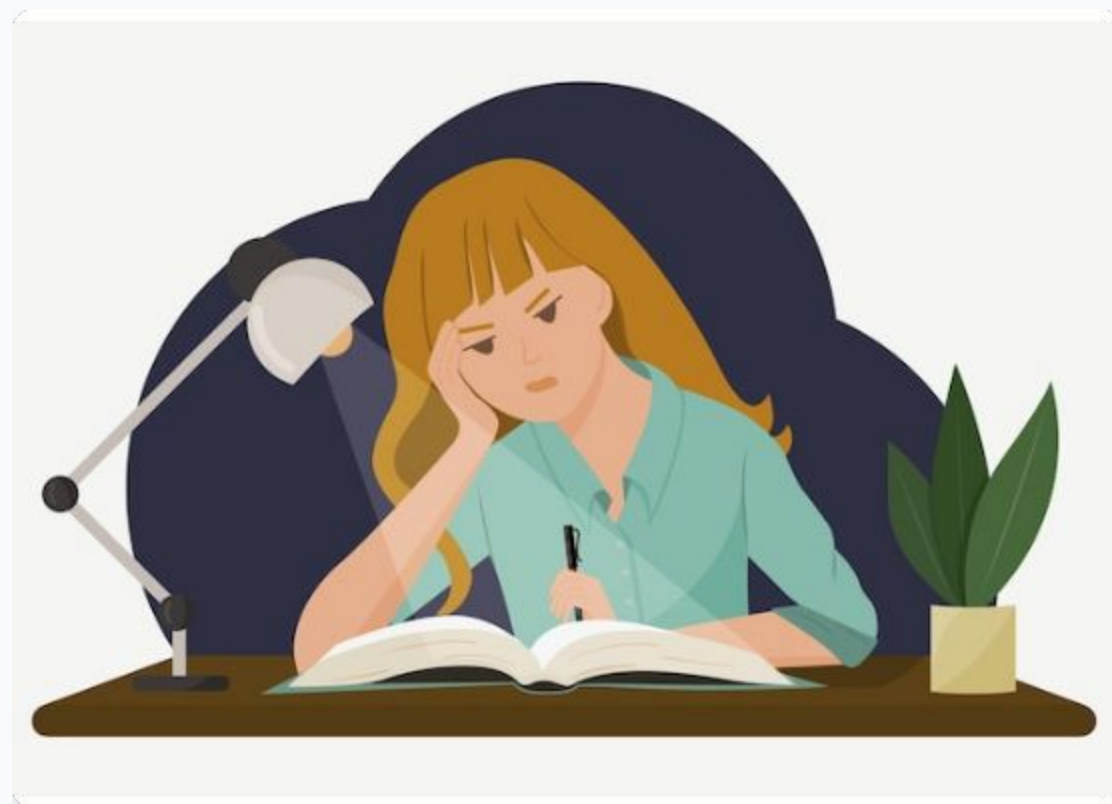
象徴 (Symbol): 形のないものを具体的な物で表すこと。

価値観 (Values): 物事の良し悪しを判断する基準。



レベル4：自我・成長に関する言葉

- ✓ **自立 (Independence)**
他に頼らず、自分自身で判断し行動すること。
- ✓ **依存 (Dependence)**
他に頼って存在すること。「自立」の対義語。
- ✓ **葛藤 (Conflict/Dilemma)**
相反する欲求がぶつかり合い、どちらを選ぶか迷うこと。
- ✓ **アイデンティティ (Identity)**
「自分は自分である」という確信。自己同一性。



学習のポイント

✓ 対義語はセットで覚える

「プラス」と「マイナス」、「内」と「外」など、対比構造を意識しましょう。

✓ 接続詞に注目する

「しかし（逆接＝対比）」「つまり（要約＝抽象化）」などの言葉が、論理の目印になります。

✓ 具体例に置き換える

抽象的な言葉が出てきたら、「例えばどういうこと？」と自分の身近な例で考える癖をつけましょう。

